

<i>Invisible link</i>	<i>link</i>
<p>『もう1人の滞在者』</p> <p>【概要】 あなたたちのシェアハウスに滞在しているもう1人の人物。部屋から出てこない。</p> <p>【トリガー】 管理人(PC5の兄弟)を連れて、部屋に向かう。</p>	<p>もう1人の滞在者</p> <p>扉を開けると、そこにいたのはヘッドホンを付けて「ドラゴンストーン」を夢中になってプレイしている少女だった。PC1とPC2と同じ制服がかけてある。荷物や所持品に「浦野千佳」と名前が書いてある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PC2のトリガー1が公開される。</li> <li>・ネクストリンク「浦野千佳」が登場する。</li> </ul>

<i>Invisible link</i>	<i>link</i>
<p>『浦野千佳』</p> <p>【概要】 あなたたちのシェアハウスに滞在しているもう1人の人物。女性。未成年。部屋には大型のパソコン、コントローラーや攻略本が所狭しと並んでいる。</p> <p>【トリガー】 ゲームに夢中な彼女に話しかけてみる。</p>	<p>浦野千佳</p> <p>実は彼女は、本当はPC1・PC2と同じ高校に通うつもりだったが、この様子だと通えていない、ということがわかる。話をしていくうちに、イエールビーに興味を持って話しかけてくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスターシーン「浦野千佳の事情」</li> </ul>

<i>Invisible link</i>	<i>link</i>
<p>『イエールビーに"喜"を教える』</p> <p>【概要】 人工知能イエールビーに"人間の感情"について教えてみよう。彼は既に"怒"の感情を持っている。</p> <p>【トリガー】 人工知能イエールビーと一緒にゲームをする。</p>	<p>イエールビーに"喜"を教える</p> <p>マスターシーン 「イエールビーに"喜"を教える」</p> <p>イエールビーは「喜」を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネクストリンク「イエールビーに"哀"を教える」が発生する。</li> <li>・PC3のトリガー1が公開される。</li> </ul>

<i>Invisible link</i>	<i>link</i>
<p>『イエールビーに"哀"を教える』</p> <p>【概要】 人工知能イエールビーに"人間の感情"について教えてみよう。</p> <p>【トリガー】 人工知能イエールビーと一緒に食事をする。</p>	<p>イエールビーに"哀"を教える</p> <p>マスターシーン 「イエールビーに"哀"を教える」</p> <p>イエールビーは「哀」を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PC1のトリガー1が公開される。</li> <li>・ネクストリンク「イエールビーに"楽"を教える」が発生する。</li> </ul>

<i>Invisible link</i>	<i>link</i>
<p>『イェールビーに "楽"を教える』</p> <p>【概要】 人工知能イェールビーに "人間の感情"について教えてみよう。</p> <p>【トリガー】 人工知能イェールビーと また一緒にゲームをする。</p>	<p>イェールビーに"楽"を教える</p> <p>マスターシーン 「イェールビーに"楽"を教える」</p> <p>イェールビーは「楽」を学習する。</p> <p>・ネクストリンク「イェールビーのお願い」 オンラインゲームドラゴンストーンが発生する。</p>

<i>Invisible link</i>	<i>link</i>
<p>『感情エンジン』</p> <p>【概要】 人工知能イェールビーに 積まれているもの。</p> <p>【トリガー】 チャレンジ/ 人工知能イェールビーの感情エンジン について調べる。</p>	<p>感情エンジン</p> <p>感情エンジンとは、対象となる人間の感情を理解し、自らが感情を持って対話する事を可能にするためプログラムである。</p> <p>。イェールビーに搭載された感情エンジンは、どうやら後天的に取り付けられたようで、元から搭載されていたものではない、ということがわかる。</p> <p>・PC4のトリガー1が公開される。</p>

<i>Invisible link</i>	<i>link</i>
<p>『イェールビーの お願い』</p> <p>【概要】 人工知能イェールビーが あなたたちにお願ひがあるそうさ。</p> <p>【トリガー】 人工知能イェールビーの 話を聞く。</p>	<p>イェールビーのお願い</p> <p>イェールビーは、このシェアハウスに 1人1人の部屋があることを知って、 自分も欲しくなったようだ。 小さなパソコンやガジェットでいいので 自分の"部屋"が欲しいようだ。</p> <p>あなたたちがもしも彼に"部屋"を 与えるなら、彼はとても喜ぶだろう。</p> <p>・PC5のトリガー1が公開される。</p>

<i>Invisible link</i>	<i>link</i>
<p>『オンラインゲーム ドラゴンストーン』</p> <p>【概要】 人工知能イェールビーが あなたたちと"一緒に"遊びたいと 言ってきたゲーム。</p> <p>【トリガー】 人工知能イェールビーと一緒に ドラゴンストーンにログインする。</p>	<p>オンラインゲームドラゴンストーン</p> <p>あなたたちがイェールビーと共に オンラインゲームに入ると、 照明が落ち、BGMが止まった。</p> <p>マスターシーン「突然のエラー」が 発生する。</p>

<i>Invisible link</i>	<i>link</i>
<p>『黒い扉』</p> <p>【概要】 ドラゴンストーンの運営は通常通りに戻ったが、イエールビーが攫われた場所はそのまま残されている。 通常のゲームにないこの黒い扉、これを調べれば、イエールビーがどこに連れ去られたかわかるかもしれない。</p> <p>【トリガー】 チャレンジ/ 黒い壁のデータ解析</p>	<p>黒い扉</p> <p>マザーズプログラムの力で、丹念にイエールビーの跡を辿る。 扉の繋がっている先を解析し、たどり着いたその場所は、しかし、ゲームの熟練者しか入る事の出来ないレベル制限の壁が設けられていた。この先に進むには、このゲームに熟練したキャラクターのデータが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネクストリンク「レベル制限の壁」</li> <li>・PC2のトリガー-2が公開される。</li> </ul>

<i>Invisible link</i>	<i>link</i>
<p>『レベル制限の壁』</p> <p>【概要】 ドラゴンストーン内にある、レベル制限の仕組みを利用した防壁。 単純が故に、強力な制限だ。ちょっとやそっとでは破れそうにはない。 条件をクリア出来るキャラクターを連れてくるのが、最速の方法だろう</p> <p>【トリガー】 レベル制限をクリアできる者を連れてくる／ラストトリガー</p>	<p>レベル制限の壁</p> <p>浦野千佳をここまで連れてくると、壁を突破できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスターシーン「最終決戦」</li> </ul>

<i>Invisible link</i>	<i>Indeterminate link</i>
<p>『PC5』</p> <p>【概要】 シェアハウス滞在の社会人。 シェアハウス管理人の兄弟。 コンピュータゲーム愛好会の1員。 ゲームなら何でも好き。</p> <p>【おすすめのタイプ】 穏やかで気配り上手。 懐が広くて友達が多い。</p> <p>【トリガー1】 ●●を知る。</p>	<p>条件:「イエールビーのお願い」を調査する。</p> <p>管理人の兄弟であるあなたは、マザーによって豊かになったこの世界で、のんびりゲームをして暮らすのが夢だった。そのメンバーに、人工知能がいてもいいじゃないか。何しろ彼なら家賃はかからない。光熱費はちょびっとかかるが、それは些細なことだ。 あなたはイエールビーに、小さな部屋を用意するのだった。</p>

<i>Invisible link</i>	<i>link</i>
<p>『PC5』</p> <p>【トリガー2】 ●●から●●を聞く。</p>	<p>条件:イージーマザーから全ての顛末を聞く。</p> <p>あなたはずっと、あの暖かな家で、誰かと一緒に楽しい時間を過ごしたいと願っていた。 そのために、あなたが迎え入れたシェアハウスの住人は、誰一人欠けてはならない。</p> <p>あなたは、ここまで一緒に戦ってきた仲間達と迷える1人の少女、そして小さな人工知能に「心安らぐ居場所を与えるため」、エージェントに選ばれたのだ。</p>

<i>Invisible link</i>	<i>Indeterminate link</i>
<p>『PC1』</p> <p>【概要】 シェアハウス滞在の高校1年生。 コンピュータゲーム愛好会の1員。 ストーリー性を重視したゲームが好き。</p> <p>【おすすめのタイプ】 好奇心旺盛。なんでも知りたがる。</p> <p>【トリガー1】 ●●が●●を得る。</p>	<p>条件:人工知能イエールビーが 2つめの感情を得る。</p> <p>初めて出会ったときのイエールビーは、まっさきにあなたのガジェットに入ってきた。イエールビーが多彩な表情を見せることで、あなたも徐々に彼のことが気に入ってきた！まるで本当に生きているかのようだ。 しかし、いったいマザーはなんのために、イエールビーに「感情エンジン」を搭載したのだろうか？</p>

<i>Invisible link</i>	<i>Indeterminate link</i>
<p>『PC2』</p> <p>【概要】 シェアハウス滞在の高校1年生。 コンピュータゲーム愛好会の1員。 アクション系のゲームが好き。</p> <p>【おすすめのタイプ】 気が優しくて、他人思い。 仲間外れを作るのが嫌い。</p> <p>【トリガー1】 ●●と出会う。</p>	<p>条件:浦野千佳と出会う。</p> <p>あなたは浦野千佳のドラゴンストーンのプレイ画面をみた。戦闘中だ。磨き上げた装備、適格な状況判断、コントローラーの上で踊る、鮮やかな指裁き…！ユーザーネームに書かれた「スカーシャドウ」の文字。 彼女が噂の無課金ゲーマーだ！まさか同じシェアハウスに住んでいる、同年代の女の子だったとは。少し気になる。話してみよう。</p>

<i>Invisible link</i>	<i>link</i>
<p>『PC1』</p> <p>【トリガー2】 ●●が消える。</p>	<p>条件:イエールビーが消える。</p> <p>あなたはこのエンディングを認めない。</p> <p>イエールビーはあなたたちとの記憶とともに、消えてしまった。けれど、取り戻せる可能性はゼロじゃない。バックアップはここにある。ここにいる全員の思い出の中に。 あなたはチャレンジを行うことができる。成功すれば、イエールビーの記憶を取り戻すことができる。 あなたは【失われたイエールビーの記憶を取り戻し、皆を笑顔にするため】、エージェントとして選ばれたのだ。</p>

<i>Invisible link</i>	<i>link</i>
<p>『PC2』</p> <p>【トリガー2】 ●●が公開される。</p>	<p>条件:「レベル制限の壁」が公開される。</p> <p>高くそびえるその壁は、マスターキーでは開かない。ハッキングで無理やりに突破するには、時間を要しそうだ。この制限を突破できるほどのドラゴンストーンプレイヤーを、あなたは知っている。そう、「浦野千佳」だ。 あなたは【浦野千佳に友達として、協力してもらうため】に、エージェントに選ばれたのだ。</p>

<i>Invisible link</i>	<i>Indeterminate link</i>
<p>『PC3』</p> <p>【概要】 シェアハウス滞在の社会人。コンピュータゲーム愛好会の1員。計算やデータを扱うゲームが好き。</p> <p>【おすすめのタイプ】 冷静沈着。 謎があるとほっとけない。</p> <p>【トリガー1】 ●●が●●を得る。</p>	<p>条件:人工知能イエールビーが"喜"の感情を得る。</p> <p>冷静にイエールビーを観察する。感情を取得する前に元から備わっているイエールビーの演算能力は、優秀な演算能力を持つコンピューターや他の人工知能と比べると、群を抜いてレベルの高いものであると気付くことができる。 既に優秀な演算機能を持つ人工知能イエールビーは、なぜ、人間の感情を必要とするのだろうか。</p>

<i>Invisible link</i>	<i>Indeterminate link</i>
<p>『PC4』</p> <p>【概要】 シェアハウス滞在の社会人。コンピュータゲーム愛好会の1員。いつでもどこでも遊べる携帯ゲームが好き。</p> <p>【おすすめのタイプ】 明るくマイペースな自信家。 珍しいもの好き。</p> <p>【トリガー1】 ●●の詳細を知る。</p>	<p>条件:「感情エンジン」の詳細を知る。</p> <p>あなたにはわかる。イエールビーの感情エンジンが外付けプログラム、ということは、もしそのプログラムが何らかの原因で失われれば、イエールビーは、あらゆる感情を失ってしまうのかもしれない。</p> <p>まあ、そんな心配をしても仕方ない。彼が、あなたの新しい遊び相手になってくれることは間違いない！ よーしイエールビー、遊ぼうぜ！</p>

<i>Invisible link</i>	<i>link</i>
<p>『PC3』</p> <p>【トリガー2】 ●●に会う。</p>	<p>条件:森重臣に会う。</p> <p>あなたは、森 重臣の事を知っている。彼は、「ドラゴンストーン」の初期開発者の一人だ。昔のゲーム雑誌で読んだが、彼は自分の息子のために、このゲームを開発したのだ。 ゲームなど下らない、イエールビーに感情など不要という彼は、きっと愛する息子の死によって、変わってしまった彼なのだ。彼の気持ちも理解できないではないが、間違っている。</p> <p>あなたは【森重臣の間違いを正すため】、エージェントに選ばれたのだ。</p>

<i>Invisible link</i>	<i>Indeterminate link</i>
<p>『PC4』</p> <p>【トリガー2】 ●●に会う。</p>	<p>条件:森重臣に会う。</p> <p>あなたは、森 重臣が放った「イエールビーは機械だ」という一言に対し、激しい怒りを感じる。イエールビーはたしかに機械である。人工知能である。 けれど、あなたにとってイエールビーは、同じゲームと一緒に遊ぶ、生きている仲間だ。また一緒にゲームをして、楽しい時間を過ごすのだ！</p> <p>あなたは、【イエールビーを取り戻すため】、エージェントに選ばれたのだ。</p>